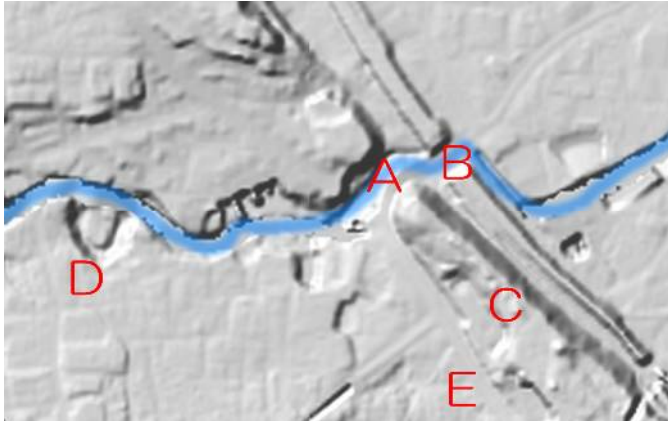


「石神井川の河川争奪(2)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

石神井川の「河川争奪」の舞台は、最上流部の小金井市でも、水源の一つである三宝字池や石神井池近傍でもありません。隅田川に合流する手前の、王子駅付近がその舞台です。石神井川としては最下流部で起きた「事件」なのです。



(国土地理院地図／田中加筆)

図は、石神井川の王子駅付近の立体地図(起伏印影図)です。Aが溪谷状になっている場所で、現在は「北区立音無親水公園」として、遊歩道も整備されています。



「音無親水公園」(グーグルマップ写真)

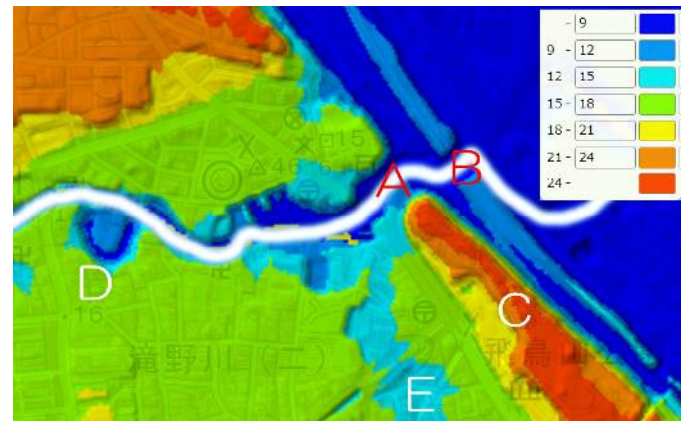
Bが王子駅で、石神井川は一部暗渠になりますが、その後、隅田川合流点に向かって東に流れ去ります。Cの高台は「飛鳥山公園」で、細長い「上野舌状台地」の一部を形成しています。「山」というよりも、海と川の「浸食をまぬがれた細長い丘」というのが正しいでしょう。Dは謎の「U字型」の浸食地形です。これ

は旧石神井川の「蛇行跡の窪地」で、いわゆる河跡湖(三日月湖)に似た地形です。現在は「北区立音無もみじ緑地」という遊歩道になっています。



「旧石神井川の浸食露頭」(グーグルマップ写真)

この緑地には蛇行時の石神井川が浸食した、武蔵野ロームの露頭があります。都内では非常に珍しい、自然に近い地層露頭の一つです。



(国土地理院地図／田中加筆)

さて、注目したいのはEの「窪地」です。飛鳥山交差点から、田端・駒込方面に抜ける都道がある敷地です。モノクロの起伏印影図ではわかりにくいので、「色別標高図」を作成しました。標高3mごとに色を変える設定にしています。飛鳥山の高台と比べてはもちろん、その周囲の土地と比較しても、明らかに数メートル低いことがわかります。

この「窪地」こそが、実は大昔の石神井川---「古石神井川(こしゃくじいがわ)」の流路と考えられているのです。つまり、かつての石神井川は、現在のように音無親水公園の溪谷を下って隅田川には注がず、武蔵野台地の最東端に「屏風のようにそびえる」上野舌状台地に遮られて東に直進できず、南に流路をとっていたと考えられているのです。